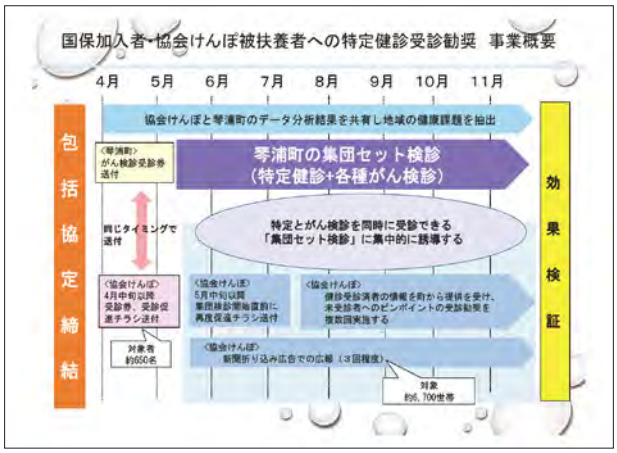
演題 145	琴浦町と協会けんぽとの連携について
	発　表　者　濱田　真紀（鳥取県　琴浦町役場）
	共同研究者　難波　浩幸

1．はじめに

琴浦町は、鳥取県のほぼ中央に位置し、農業など産業の盛んな人口18,475人、世帯数6,439世帯のまちです。

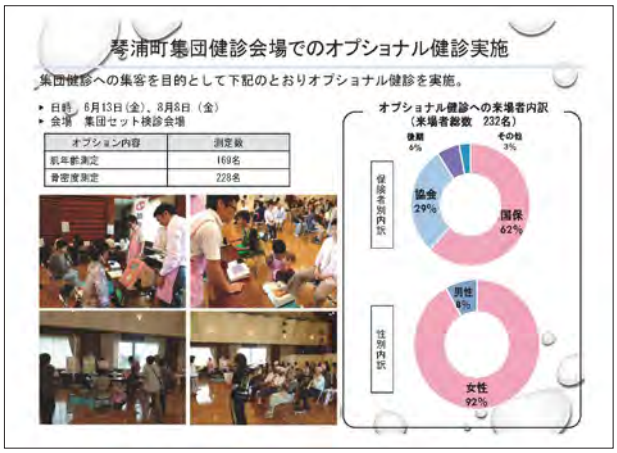
特定健診、がん検診の受診率は、共に30%前後と低迷しており、検診受診者の６割が65歳以上の高齢者であることから、事業所に勤める若い世代の受診率の向上を目的に全国健康保険協会鳥取支部と包括協定を締結した。協定の内容は、各種検診の勧奨チラシや医療費などの共同分析、また、その他の連携事業をとおして取り組んだのでその経過について報告する。



2．連携事業の概要

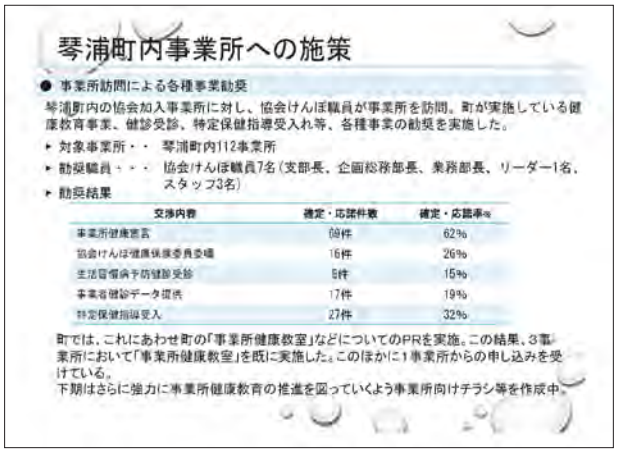
Ⅰ　受診勧奨及びオプショナル健診

表の計画にそって、受診勧奨チラシを本町の検診スケジュールに合わせて発送し、同時に新聞への折込チラシも全世帯へ実施した。今後の予定としては、11月までの集団セット検診と合わせて受診勧奨チラシを送付していく予定である。連携事業により、これまで、事務的なチラシであったものを町民の目にとまるチラシに変えた。また、これまで実施していなかった新聞への折込チラシによる受診勧奨の推進をはかることができた。



オプショナル健診では、本町の集団セット健診の２会場で肌年齢測定と骨密度測定を実施し、その様子が翌日、新聞でも報道され、期間中最も多い250人の受診者となり、イベントの集客力の大きさを感じた。

全体での検診受診者数は低調ではあるが、この受診者数の減少は、昨年まで１日実施していた検診が今年度半日に変更したことによる影響と考える。しかし、こういった状況において、受診者数がほぼ変わらず、協会けんぽを含む国保外の受診者数は増加していた。また、基本健診受診者数も増加している。これは、若年層への年齢の拡大を図ったこととチラシや新聞への折込による勧奨の成果と考える。



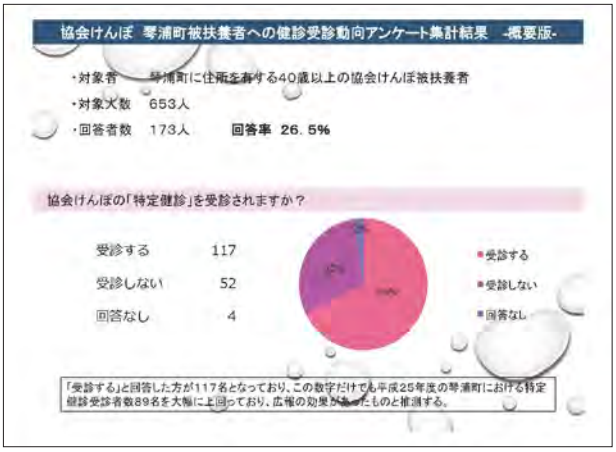
Ⅱ　事業所への施策

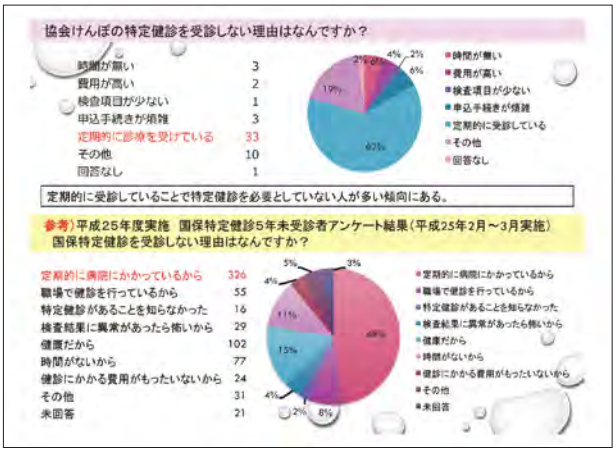
町内の112事業所に対し、各種事業の勧奨を協会けんぽの職員が訪問にて実施した。

この訪問活動により、健康宣言をされた事業所が69件あった。また、町が実施している健康教育事業の推進により、３事業所で健康教育を実施することができた。今後もさらなる推進をはかり、事業の展開を図っていく予定である。また、今年度、新たに町内で大手にあたる１事業所でがん検診を実施されたところがあり、事業所への推進となる大きな成果が得られた。

Ⅲ　健診受診動向アンケート調査

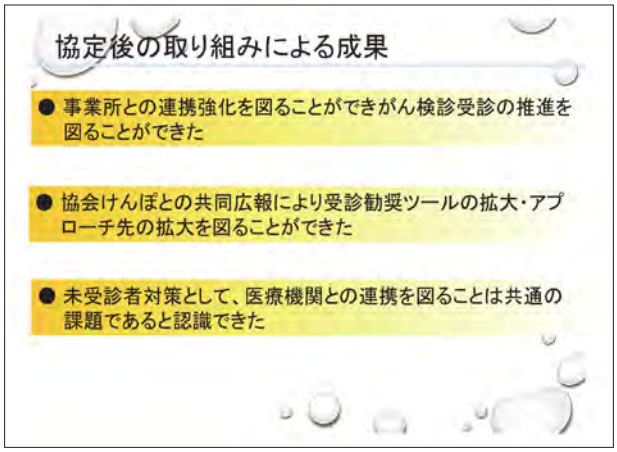
協会けんぽ被扶養者に対してアンケートを実施した。

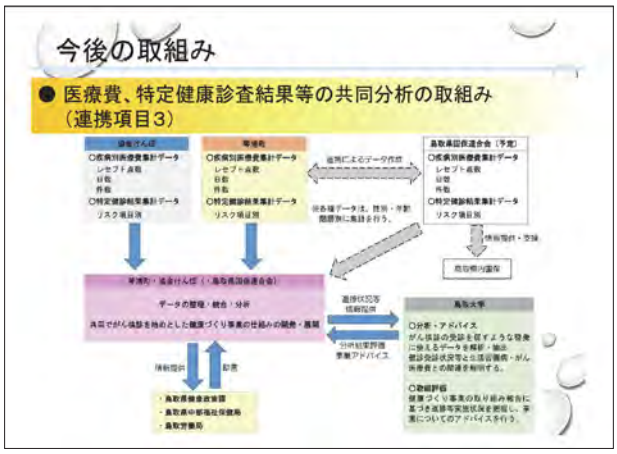




このアンケートから、健診未受診の理由として、62%の人が「定期的に病院にかかっているから」と回答していた。また、平成25年度に本町が実施したアンケートでも、48%の人が同様の回答をしていた。

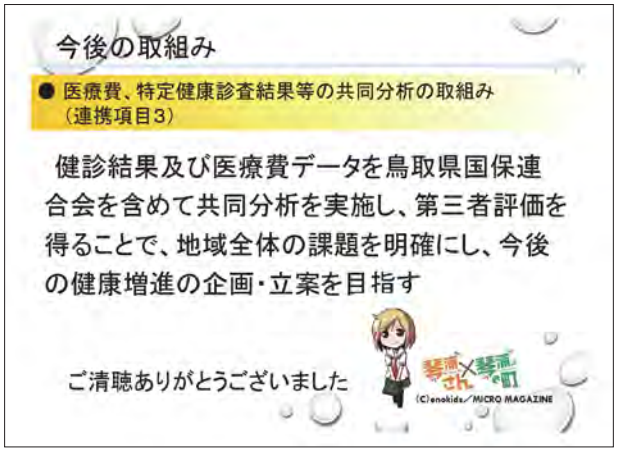
この結果から、特定健診未受診者への対策にあっては、医療機関との連携が不可欠であり、国保・協会けんぽともに共通の課題であるということが認識できた。





3．今後の展開

今年度、包括協定を締結したばかりで成果はまだ見えていないが、今回の連携を通して事業所との連携強化を図ることができ、がん検診受診の推進を図ることができた。また、協会けんぽとの共同広報により、受診勧奨ツールの拡大をはかることができた。そして、医療機関との連携など共通の課題も認識できた。



今後の展開としては、医療費や健診データなど国保連合会も加わり、三者で共同分析に取り組みたいと考えている。また、その分析について第三者評価を得ることにより、地域全体の健康課題を適切に把握し、質の高い健康増進の企画・立案を目指していきたいと考える。